

同志社大学スポーツ健康科学部
2020年度 スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
結果講評について

同志社大学スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2019年11月2日に2020年度「スポーツ能力に優れたものを対象とする特別入試」の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後もその経験を生かして勉学は勿論、競技力の向上やスポーツ支援活動等に積極的、自主的に取り組もうとする生徒さんを対象とするものです。出願に際しては、全国大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第3学年第1学期末までの評定平均値が3.2以上であることが条件となります。

本入試は、第1次選考の書類審査(50点満点)、第2次選考の小論文審査(50点満点)と面接審査(20点満点)で行われ、合格判定は、第1次選考と第2次選考の結果を総合(120点満点)し、厳正に選考します。

第1次選考では、受験者の競技成績を中心に評価を行い、採点に際しては各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も加味し、詳細に検討しました。その結果、今年度は70名を合格としました。受験者総数は100名でしたので、この時点で倍率がほぼ1.4倍でした。今年度の第1次選考のハードルは、昨年と同様にかなり厳しい高さとなりました。

第2次選考の小論文審査では、例年どおり課題に対する論理的・客観的思考力および記述力を評価の主要観点としました。普段からスポーツ・健康科学にまつわる事象について関心や疑問を持ち、思考する習慣が必要となります。自立できるアスリートにとっては必要な姿勢・能力のひとつで、同志社スポーツが目指すところでもあります。

第2次選考の面接審査は、受験生1名に対して2名の面接官で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等における特長をよく事前把握された受験生が多数おられた一方で、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名おりました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であると同時に、競技だけではなく広い意味での同志社スポーツの担い手になってくれることを期待しています。クラブ活動のみを希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨のとおり、入学後に学業とスポーツ活動(する・観る・支える)を両立させる強い意志を持つ方を希望しています。

以上の第1次および第2次選考の結果、最終的に38名の合格者を決定しました。最終倍率は2.6倍でした。スポーツ健康科学部の求める学生像に即して、様々な競技種目から文武両道に長けた優秀な方々を選出しました。この入試で合格された方々が、今後、本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍してくれることを大いに期待しています。

以 上

<2020年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	100名	64名	36名
第1次選考合格者	70名	44名	26名
第2次選考合格者	38名	24名	14名

<合格者の競技種目>

アーチェリー、アイスホッケー、バドミントン、馬術、バスケットボール、ボクシング、フェンシング、ハンドボール、柔道、空手道、剣道、テニス、硬式野球、ラグビーフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、水泳(競泳)、水泳(飛込)、射撃、少林寺拳法、卓球、軟式野球、競技ダンス、スノーボード

2020年度 同志社大学スポーツ健康科学部
スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
小論文 試験問題

受験番号

- 注意：1. 解答は別紙の解答用紙 1 枚にすること。
2. 問題用紙・解答用紙を持ち帰ってはならない。
-

<問題>

日本フェンシング協会は、日本代表選手の選考に英語の試験を導入すると発表しました。別紙は、同協会の太田雄貴会長に対するインタビューの記事（朝日新聞2019年6月12日「剣士よ英語を力に」）です。この記事を読んだ上で、自身が専門とする競技における課題を、選手の語学能力以外の点で挙げ、あなたが競技団体のトップの立場になったら、どのような改善策を実施したいかを述べてください。

<字数：800字以上1200字以内>

(以下余白。余白は下書きに使用してください。)

*別紙 1 枚配布
(著作権の都合上、問題文を掲載していません)